

## 水 稲

### 1. 作付の概況

九州における平成19年度の水稲作付面積（青刈り面積除く）は、19万5,900haで、前年に比べて4,300ha（2%）減少した。これは、作付しない水田の増加や稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ）用稲などの作付が増加したためである。品種毎の作付状況を見ると、ヒノヒカリの作付割合が最も多く作付品種の55%（前年は56%）であり、次いでコシヒカリ14%（前年と同じ）で、両品種で69%の作付面積をしめている。

### 2. 作柄の概況

九州における平成19年産水稲の収穫量は、93万6,200tで、前年に比べて15万5,800t(20%)増加した。これは、昨年に比べて10a当たり収量の減少程度が小さかったためである。

しかし、本年の九州の作柄も優れず、作況指数95の「やや不良」で、10a当たり収量は478kgであった。九州沖縄の県別の作況指数は、宮崎県が76と最も低く、沖縄県が91とともに「不良」で、佐賀県と鹿児島県が95、福岡県が97、大分県が98と「やや不良」で、長崎県と熊本県が100と「平年並み」であった。

### 3. 生育の概況

#### 1) 普通期水稲

田植え期以降7月中旬まで寡照に経過したことから、茎数はやや少なかったが、7月下旬以降は、気温も高く日照にも恵まれて生育は回復した。この結果、穂数は「やや少」から「平年並み」となり、 $m^2$ 当たり籾数も「やや少」から「平年並み」となった。遅植への指導などにより田植期が平年より2-3日遅く、また、7月上旬からの日照不足の影響があったものの、梅雨明け以降おおむね天候に恵まれたことから、出穂期は、「平年並み」ないし「2日程度早く」なった。出穂期以降、多照で推移したことから、登熟は、南九州の熊本県、宮崎県および鹿児島県では「平年並み」ないし「やや良」で、北部九州の福岡県、佐賀県、長崎県および大分県では、高温等の影響により、「平年並み」ないし「やや不良」となった。また、刈り取り期については、高温の影響で平年より「1日ないし3日程度早く」なった。

玄米品質については、1等米比率が九州全体で30%と、全国平均の80%を大きく下回り、台風被害のあった前年度と同様に劣った。品種毎に見ると、極早生～早生種は山間・中山間地では比較的充実が良かったが、平坦地ではやや劣り、出穂後20日間の平均気温が26℃以上で多発する乳白粒や心白粒が多く、カメムシによる着色粒も多く発生した。中生種のヒノヒカリは、一般的に皮部が厚く縦溝が深い傾向で、乳白・心白粒は少なかったが、高温登熟による基部未熟粒やカメムシによる着色粒がやや多かった。うるち玄米等級の格下げ理由としては、充実不足が最も多く49%で、次いで心白・腹白粒24%、着色粒10%であった。

#### 2) 早期水稲

主産県の作柄は、宮崎県が10a当たり収量205kgで作況指数43で、鹿児島県が同298kgで作況指数68で、ともに「著しい不良」で、早期水稲の作付けが始まって以来の大不作であった。

分けつ期が天候に恵まれて推移したことから穂数は「多く」なったが、1穂籾数は「やや少なく」なり、 $m^2$ 当たり籾数は「平年並み」となった。しかし、出穂期以降の日照不足と7月14日に襲来した台風第4号の強風および通過後の乾燥風（フェーン）などのため、心白粒など白未熟粒が多量に発生し、登熟は「著しい不良」となった。この結果、宮崎県では69%が、鹿児島県では39%が規格外となり、作況指数は大幅に低下し、1等米比率も宮崎県が0.2%、鹿児島県が10%と過去最低となった。

#### 4. 被害の概況

水稲の被害面積は71万7,000haであり、被害総量は16万2700tで被害率は16.5%と、平年を4.3ポイント上回った。被害種類別に見ると、早期水稲の台風被害など気象災害が9.6%と最も大きく、平年を3.1ポイント上回った。次いで病害が3.6%で平年より0.3ポイント少なく、逆にウンカなどによる虫害は3.1%で、平年を1.4ポイントも上回った。

(九州沖縄農業研究センター暖地温暖化研究チーム 筑後研究拠点 北川 寿)

2007年産水稻の収穫量

区分	作付面積 (ha)	10 a 当たり 収量 (kg)	収穫量 (t)	作況 指数	前年との比較					
					作付面積		10a当たり収量		収穫量	
					対差 (ha)	対比 (%)	対差 (kg)	対比 (%)	対差 (t)	対比 (%)
九州計	195,900	478	936,200	95	△ 4,300	98	88	123	155,800	120
福岡	40,000	485	194,000	97	△ 1,200	97	103	127	36,600	123
佐賀	28,100	504	141,600	95	△ 900	97	242	192	65,600	186
長崎	14,600	472	68,900	100	△ 100	99	150	147	21,600	146
熊本	41,000	513	210,300	100	△ 1,000	98	73	117	25,500	114
大分	25,900	493	127,700	98	△ 300	99	98	125	24,200	123
宮崎	21,000	372	78,100	76	△ 500	98	△ 93	80	△ 21,900	78
鹿児島	25,300	457	115,600	95	△ 300	99	22	105	4,200	104
沖縄	1,020	282	2,880	91	△ 20	98	△ 9	97	△ 150	95

注) 資料：平成19年産水陸稲の収穫量（2007.12.07，農林水産省大臣官房統計部）  
△は減少を示す。